

母親の育児不安に対する父親の育児参加の影響

菊 野 雄一郎
(長崎大学)

The Influence of Paternal Participation in Childcare on Maternal Childcare Anxiety

Yuichiro KIKUNO

キーワード：母親の育児不安、父親の育児参加、支援

Keywords：Maternal Childcare Anxiety, Paternal Childcare Participation, Support

1. 要約

本研究では、父親による育児参加が母親の育児不安にどのように影響しているのかを検討した。その結果、低年齢の母親では、育児行動を多くする高育児参加の父親に比べ育児行動の少ない低育児参加の父親において、育児不安が有意に高かった。しかし、高年齢の母親では、高育児参加の父親と低育児参加の父親で有意差は見られなかった。さらに、父親による「食事」と「入浴」の育児参加行動が、低年齢の母親の育児不安の低減に有意な関係性があることが示された。これらの結果は、父親が積極的に育児に参加することにより、母親の育児不安が低減する可能性を示唆している。

2. 問題・目的

子育ては、母親にとって精神的、肉体的に負担が大きく、それ故、母親の育児不安が強くなると考えられている（例えば、大日向, 1999）。また、育児不安の低減は、子育てや子どもの健全な発達を考える上で喫緊の課題である。大日向（1999）は、日本の社会では、育児負担が母親に大きくなる一方で、父親の育児参加環境の構築が難しく、それが母親の育

児不安の軽減を妨げていることを示唆している。以上の報告を踏まえると、母親の育児不安解決の糸口として、父親の育児参加がクリティカルであると考えられる。

子育てにおける父親の役割についての研究が多く行われている（日垣, 2006; 石原, 2006; 近藤, 2007; 正高, 2002; 清水, 2005; 汐見, 2003）。これらの研究では、父親の役割や機能とは何かについて議論され、家庭や社会において父親が何をすべきなのかについても多くの論議が絶えない。また、父親の育児参加と育児不安との関連についての研究も多く見られる（本保・八重樫, 2003; 河野, 2011; 京須・橋本, 2007; 大日向, 1999; 大元, 2010; 前田, 2007; 住田・藤井・田中・中田, 1999; 住田・田中・溝田, 2000; 関根・間・室, 2000）。これらの研究から、父親の育児参加が母親の育児不安の軽減にとって、重要な役割をすることが明らかになっている。

日本の父親は、育児や家事にどの程度参加しているのだろうか。大日向（1999）によると、日本の父親は、欧米をはじめ、アジアにおいても、子どもと一緒に過ごす時間が短く、父親が子育てに参加する行動が少ないことを示唆している。埴・深谷（2001）

は、父親の育児行動のうち、体力や特別な技術が必要なこと（大工仕事など）はするが、炊事、洗濯、掃除などは母親が行っていることを示している。これらのことから、日本の父親の育児参加は少なく、これが母親の育児不安の要因の一つであると考えられる。

それでは、父親の育児参加の少なさが、母親の育児不安にどのように影響しているのであろうか。父親の育児態度と育児不安の関係について、住田・藤井・田中・中田（1999）は、父親の育児態度が過剰型や不安型の場合、母親の育児不安が高いことを明らかにしている。同様に、河野（2011）も父親の育児参加と母親の育児不安が関与することを示している。本保・八重樫（2003）は、家事・子育てに頻繁に参加している父親ほど、母親の子育て不安が低くなることを明らかにしている。さらに、父親の家事や子育ての参加の最も大きな要素は「妻を精神的に支えること」であることを示唆している。また、子どもの年齢が低いほど、父親の家事・子育て参加は高くなっていること、子どもの人数が少ないほど父親の家事・子育て参加は高くなっていることが明らかにされている。このように、父親の育児参加は、年齢や子どもの数などにも関係する。

それでは、ただ単に父親が育児に参加すればいいのであろうか。この点について、住田・田中・溝田（2000）は、父親の育児参加があるほど母親の育児不安が低くなるが、父親の育児参加を満足している方が母親の育児不安が低下することを明らかにしている。これは、父親の育児参加は重要であるが、父親の育児参加について積極的な関与や意識が重要であることを示している。そこで本研究では、父親による育児参加が母親の育児不安の低減にどのように影響しているのかを検討した。特に、(1)父親の育児参加によって母親の育児不安が低減するのか。(2)父親の育児参加による母親の育児不安の低減の大きさは、母親の年齢によって異なるのか。(3)父親の育児参加によって、母親のどのような育児不安を低減させるのか。(4)母親の育児不安を低減させるのに、有効な父親の育児参加行動は何かを明らかにすることを目的とした。

3. 方法

1) 研究協力者

本調査に協力した研究協力者は、保育園に子どもを預けている母親80名であった。母親の年齢範囲は25歳から45歳であり、平均年齢は36.13歳(SD = 4.99)であった。

2) 調査内容

本調査では、母親の年齢、父親の育児参加、母親の育児不安について質問した。父親の育児参加と母親の育児不安の質問項目は以下の通りであった。

(1)父親の育児参加

父親の育児参加については、「食事」、「洗濯」、「買物」、「入浴」、「掃除」、「就寝」の6つの育児行動に父親が参加しているのかを質問した。

(2)育児不安テスト

母親の育児に対する不安の傾向を測定するため、以下の10項目の質問から構成された育児不安テストを用いた。

- (1)子育てから離れたたいことがある
- (2)子どもと一緒にいると楽しい気分になる
- (3)子どもを育てることは楽しい
- (4)子どもを育てることがつらくなることもある
- (5)子どもの顔を見たくなくなる
- (6)子どもが泣いたらどうしようかとパニックになる
- (7)自分の子育てがこれでよいのか不安になる
- (8)子どものことがわずらわしくてイライラする
- (9)子育てで、したいことができなくてあせる
- (10)母親としての自信がない

これらの項目について、研究協力者は、「全くそうである」、「そうである」、「そうでない」、「全くそうでない」の4段階尺度で回答するように教示された。

3) 調査手続き

本調査では、保育園の保育者から母親に配布する留置調査法を採用した。調査用紙を配布し、数日後に保育園で回収した。調査は無記名で実施された。なお、研究協力者は、調査目的、方法、調査結果の取り扱い、について十分な説明を受け、同意した上で調査に参加した。

4. 結果

1) 母親の年齢と父親の育児参加による分類

本調査では、収集した80名分のデータのうち、年齢など未記入のデータ18名分を分析から除外した。その結果、62名の母親のデータを分析の対象とした。さらに、母親の年齢と父親の育児参加に基づき、低年齢・低参加群、低年齢・高参加群、高年齢・低参加群、高年齢・高参加群の4群に分類した。

母親の年齢区分については、研究協力者の平均年齢を基準とした。すなわち、35歳以下の母親27名を低年齢群、36歳以上の母親35名を高年齢群とした。また、父親の育児参加については、「食事」、「洗濯」、「買物」、「入浴」、「掃除」、「就寝」の各養育行動を1点として、父親がどの程度参加したかの基準とした。本研究では3項目以下の養育行動に参加している父親を低参加群、4項目以上の養育行動の参加の父親を高参加群とした。これらの基準に基づき、低年齢・低参加群9名、低年齢・高参加群18名、高年齢・低参加群18名、高年齢・高参加群17名に分類した。

2) 育児不安における母親の年齢と父親の育児参加

(1) 育児不安における母親の年齢と父親の育児参加要因の分析

図1は、母親の年齢と父親の育児参加の2要因に基づき、低年齢・低参加群、低年齢・高参加群、高年齢・低参加群、高年齢・高参加群の4群に分類した育児不安の総点の平均値及び標準誤差を示す。「母

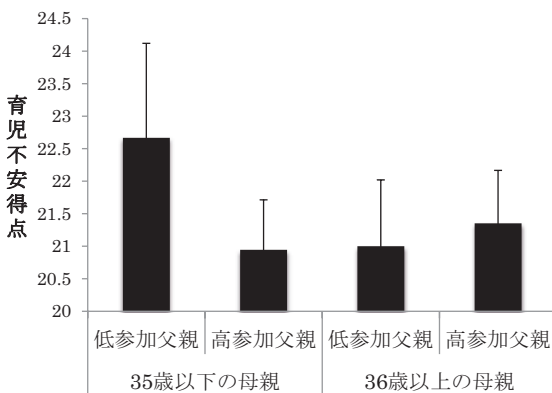


図1 「母親の年齢」と「父親の育児参加」に基づく4群の育児不安の平均値、エラーバーは標準誤差を示す。

親の年齢」と「父親の育児参加」を要因とした2要因分散分析を行った。その結果、母親の年齢と父親の育児参加の両主効果は有意でなかった ($F_s < 1$)。また、交互作用についても、有意でなかった。

(2) 父親の育児参加・母親の年齢と育児不安特性の分析

育児不安テストの項目ごとに、「母親の年齢」と「父親の育児参加」を要因とする2要因分散分析を行った。多重比較では、Holm法を用いた。その結果、「子どもが泣いたらどうしようかとパニックになる」と「母親としての自信がない」において、有意な主効果及び交互作用が見られた ($p_s < .05$)。まず、「子どもが泣いたらどうしようかとパニックになる」では、「母親の年齢」と「父親の育児参加」の交互作用が有意であった ($p_s < .05$)。年齢の若い母親では、高育児参加の父親よりも低育児参加の父親における育児不安が高かった。一方、年齢の高い母親では、高育児参加の父親と低育児参加の父親で有意な差は見られなかった。「母親としての自信がない」の項目では、母親の年齢の主効果が有意であった ($p < .05$)。これは、高年齢の母親よりも、低年齢の母親の方において、有意に育児不安が高いことを示している。

3) 父親の育児参加行動と母親の育児不安の関係性

父親の育児参加が、母親の育児不安にどのように影響しているのかを検討するために、父親の育児参加行動と母親の育児不安との相関係数を算出した。図2左は、父親の育児参加行動と母親の育児不安との相関係数を示したものである。各相関係数の有意性を調べるためにF検定を行ったところ、全質問項目の相関係数が有意ではなかった。

母親の年齢に基づいて、父親の育児行動と母親の育児不安との相関係数を求めた。図2中央は、35歳以下の母親における育児不安と父親の育児参加との相関係数を示したものである。F検定を用いて有意性を求めた。育児不安項目ごとに、有意に関連している父親の育児参加行動の数を調べたところ、以下の結果が得られた。「子どもが泣いたらどうしようかとパニックになる」、「自分の子育てがこれでよいのか不安になる」の母親の育児不安については、父

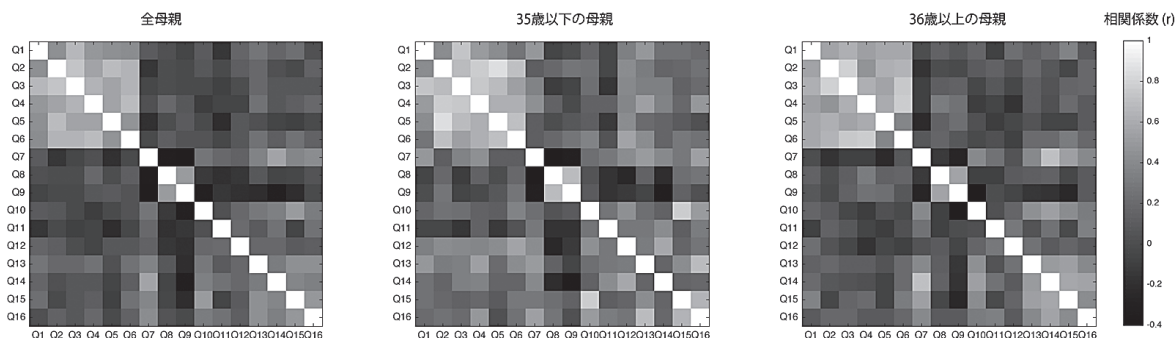


図2 全母親（左）、35歳以下の母親（中央）、36歳以上の母親（右）の育児不安と父親育児参加及びその他質問項目との相関係数マトリックス。白色に近いパッチは、強い正の相関を示す。Q1～16は本調査に用いた以下の項目と対応する。Q1:食事、Q2:洗濯、Q3: 買物、Q4:入浴、Q5:掃除、Q6:就寝、Q7:子育てから離れたことがある、Q8:子どもと一緒にいると楽しい気分になる、Q9:子どもを育てることは楽しい、Q10: 子どもを育てることがつらくなることもある、Q11: 子どもの顔を見たくなくなる、Q12: 子どもが泣いたらどうしようかとパニックになる、Q13: 自分の子育てがこれでよいのか不安になる、Q14: 子どものことがわずらわしくてイライラする、Q15: 子育てで、したいことができなくてあせる、Q16: 母親としての自信がない。

親の3つの育児参加行動（前者:洗濯、掃除、就寝、後者:食事、入浴、就寝）と相関係数が有意であった。次に、「子育てから離れたことがある」の母親の育児不安では、父親の2つの育児参加行動（食事、入浴）で相関係数が有意であった。「母親としての自信がない」の母親の育児不安については、父親の1つの育児参加行動（入浴）との相関が有意であった。

図2右は、36歳以上の母親における育児不安と父親の育児参加との相関係数を示したものである。これについても、育児不安項目ごとに、有意に関連している父親の育児参加行動の数を調べたところ、以下の結果が見られた。「子育てから離れたことがある」の育児不安においてのみ、父親の1つの育児参加行動（掃除）との相関が有意であった。

5. 考察

本研究では、以下の結果が得られた。第一の主な結果として、高年齢の母親よりも低年齢の母親の育児不安が有意に高かった。第二の主な結果として、低年齢の母親では、高育児参加の父親よりも低育児参加の父親で育児不安が高かった。しかし、高年齢の母親では、高育児参加の父親と低育児参加の父親で有意差は認められなかった。第三の主な結果として、低年齢の母親では、「子どもが泣いたらどう

しようかとパニックになる」、「自分の子育てがこれでよいのか不安になる」、「自分の子育てがこれでよいのか不安になる」、「子育てから離れたことがある」、「母親としての自信がない」の育児不安で、父親の育児参加行動との相関が有意であった。他方、高年齢の母親では、「子育てから離れたことがある」においてのみ、父親の育児参加行動との相関が有意であった。以上の結果に基づき、本研究の結果を考察する。

本研究では、高年齢の母親よりも低年齢の母親の育児不安が有意に高いことが明らかになった。この理由として、低年齢の母親の方が、育児経験が少ないことや育児について話せる知人が少ないことが考えられる。それでは、低年齢の母親の育児不安は、夫である父親の育児参加によって低減されるのだろうか。本研究では、低年齢の母親では、高育児参加の父親よりも低育児参加の父親で育児不安が高かったが、高年齢の母親では、高育児参加の父親と低育児参加の父親で有意差は認められなかった。この結果は、これまでの研究結果とも一致する（本保・八重樫, 2003; 河野, 2011; 住田・藤井・田中・中田, 1999; 住田・田中・溝田, 2000）。これらの結果は、高年齢の母親に比べ、低年齢の母親にとって、父親の育児参加が重要であることを示唆している。

父親の育児参加によって、母親の育児不安のど

の側面を低減するのであろうか。本研究の結果では、「子どもが泣いたらどうしようかとパニックになる」、「自分の子育てがこれでよいのか不安になる」について、育児不安がより低減されることが明らかになった。父親の育児参加によって、育児中の不測の事態での対応、自分の育児の仕方への不安が低減することが示されている。すなわち、母親が子育て対応が困難なことがあっても、父親が育児に参加することで、母親は不安が低減することを示唆している。最後に、父親がどのような育児に参加することが、母親の育児不安を低減させるのに有効であろうか。本研究では、「食事」、「入浴」といった育児参加行動が、母親の育児不安を低減することを示している。この結果は、子どもの食事や入浴など母親一人では難しい育児に対して、父親が育児に参加することで、育児不安が低減されることを示している。

引用文献

- 塙和明・深谷昌志（2001）育児不安の構造に関する考察（2）：父親の「育児関与」に関連させて日本保育学会大会研究論文集（54）, 194-195.
- 日垣隆（2006）父親のすすめ 文藝春秋
- 石原壮一郎（2006）父親力検定 岩崎書店
- 近藤卓（2007）お父さんは子どもを守れるか！？ 日本文教出版
- 河野順子（2011）母親が抱える育児不安に関する要因：子どもの育てにくさー母親の認知様式、父親の育児参加をめぐってー、東海学園大学研究紀要 人文科学研究編 16、55-64.
- 京須希実子・橋本鉦市（2007）「おやじの会」と父親の育児参加（2）ーB会を事例としてー 東北大学大学院教育学研究科研究年報 55、13-25.
- 正高信夫（2002）父親力 中央公論新社
- 本保恭子・八重樫牧子（2003）母親の子育て不安と父親の家事・子育て参加との関連性に関する研究、川崎医療福祉学会誌、13、1-13.
- 小日向雅美（1999）子育てと出会う時 NHKブックス 日本放送出版協会
- 大元千種（2010）父親の育児参加とその支援について、筑紫 女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要 5、187-196.
- 前田由美子（2007）子育て支援は父親支援ー性別視点による児童虐待予防のための子育て支援再検討ー、共愛学園前橋国際大学論集 119-138.
- 関根剛・間三千夫・室みどり（2000）父親の育児支援に影響を与える要因について 和歌山信愛紀要 40、35-40.
- 清水克彦（2005）父親力で子どもを伸ばせ 子どもの未来社
- 汐見稔幸（2003）おーい父親 大月書店
- 住田正樹・藤井美保・田中理絵・中田周作（1999）父親の育児態度と母親の育児不安 日本教育社会学会大会発表要旨集録（51）, 113-114.
- 住田正樹・田中理絵・溝田めぐみ（2000）父親の家事育児参加と母親の育児不安 日本保育学会大会研究論文集（53）, 640-641.

（受稿 平成29年1月23日，受理 平成29年2月7日）

